

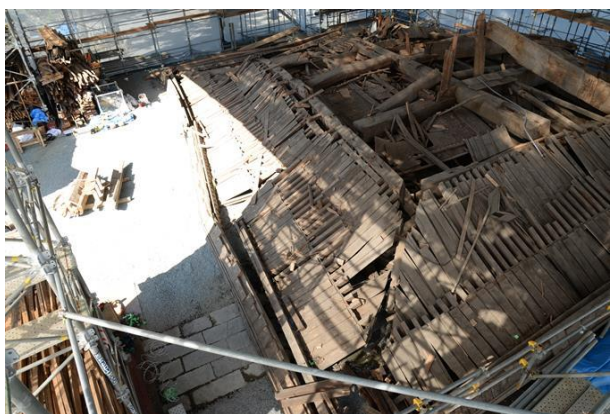
工事監理中には、色々な作業を行い、建物の様々な特徴がわかってきます。このコラムでは、作業の技術・阿蘇神社の建物の特徴などについて紹介していきたいと思います。

修理工事こぼれ話① 写真とカメラ

工事監理において、写真撮影をして記録に残しておくことは大切な業務のひとつです。特に文化財建造物の修理工事の工事中に撮影した写真の中には、半永久的に保存されるものもあり、毎日気を配りながら撮影をしています。今回は、写真とカメラについて紹介したいと思います。

まず、どのような記録写真を主に撮影しているか紹介します。

- ①**定点写真** 工程が一段階終わるごとに撮るものです。人や余計なものが写らないように撮影します。また、日差しが強いと、日が当たっている部分と当たっていない部分で明るさに差が出てしまい、伝えたい情報がうまく伝わらない写真になってしまう可能性があります。そのため、なるべく曇の日や朝方・夕方の太陽光が弱い時間帯を狙って撮影しています。

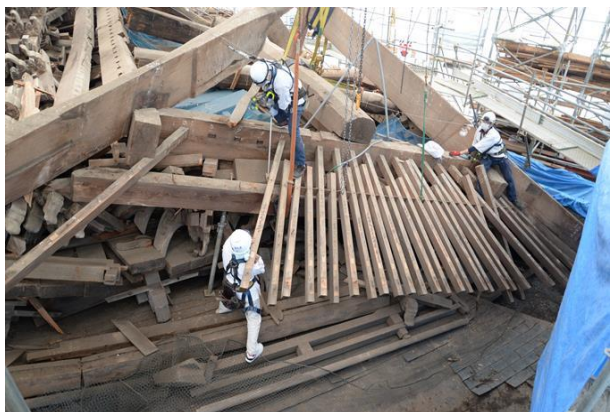


日差しが強い時に撮影した写真



日差しが弱い時に撮影した写真

- ②**作業写真** 作業中の職人さんたちの作業を撮っています。どのような作業がいつ・どのように行われたのかを記録するために撮影します。どのタイミングが、職人さんたちの動きがよく表れる写真になるか、いつも考えながら撮影していますが、なかなか満足いく写真は撮れません。



この2枚は、動きがそこそこあらわれているかなと思うものです

③建物詳細写真 定点撮影中や作業写真撮影中に一緒に撮っていきます。大工さんに部材を持ち上げていただきながら撮影したり、その部分がどうなっているか、一番わかりやすい状態で撮ります。



大工さんに持ち上げてもらい、縦材と横材の取付きを撮影



金具による取付きもあります

次に、撮影しているカメラについて紹介します。

始めに書きましたように、文化財建造物の修理工事中に撮影した写真の中には半永久的に保存されるものもあるため、「フィルム」という物体を残すことができるフィルムカメラを使用しています。しかし、デジタルカメラの利便性・機能性を生かして、この現場ではフィルムとデジタルカメラを併用しています。写真の用途に応じて、中判(6×9)フィルムカメラ、35mmフィルム一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラを使い分けています。

このように日々撮影している写真を、この工事報告にも使用しています。

これからもより良い写真を撮影できるよう、日々精進あるのみです。

(石田 陽是)



中判(6×9)フィルムカメラ



35mmフィルム一眼レフカメラ



デジタル一眼レフカメラ